

2022年8月1日

各位

三菱UFJ信託銀行株式会社

## 「早生樹×バイオマス発電」実証事業への参加について

三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長 <sup>ながしま いわお</sup>長島 巖、以下 三菱UFJ信託銀行）は、2050年カーボンニュートラルへの貢献に向けた取組の一つとして、岡山県真庭市（市長 <sup>おおた のぼる</sup>太田 昇、以下 真庭市）及び真庭森林組合（組合長 <sup>かんだ じろう</sup>完田 二郎、以下 森林組合）と、耕作放棄地等の未利用土地を活用した早生樹の植樹によるバイオマス発電の安定的な燃料確保ルート拡大に向けた実証事業を行うこととなりましたので、お知らせいたします。

### 1. 背景

「早生樹×バイオマス発電」は、2050年カーボンニュートラルを目指す日本にとってCO<sub>2</sub>を吸収する重要な資産である森林を持続可能な資源とするとともに、林業をはじめとする森林ビジネスを活性化するべく取り組むプロジェクトです。現在、森林を取り巻く環境は、“国内森林の高齢化”や“森林ビジネスの収益性の低さ”等の様々な課題に直面しています。この課題に対して、スギやヒノキが伐採適齢期になるまで30-50年かかっていた期間を「早生樹」により10年程度まで短期化させ、再生エネルギーとして拡大を続けるバイオマス発電の地産燃料として供給することで、里山環境の保全およびカーボンニュートラルへの貢献を目指します。また、真庭市と森林組合と協働で行う本実証事業を通じて、将来的には真庭市に存在する耕作放棄地及び皆伐未栽地等の再生を目指して参ります。

### 2. プロジェクト概要

脱炭素先行地域として選定されている真庭市とともに、更なるバイオマス発電の利用拡大に向けて、燃料源である木質チップの原料確保への貢献を目指して、同市に自生している早生樹であるヤナギを活用した実証事業を森林組合と進めてまいります。初年度は将来的な植樹に向けて外部アドバイザーとして岡山県農林水産総合センター森林研究所にも参画頂き、ヤナギの苗木育成に取り組んでいきます。

本実証事業への参加は2050年カーボンニュートラルへの貢献を目指した取組の一つであると考えており、当社は本件を進めていくとともに、CO<sub>2</sub>の吸収主体でもある森林、農地を取り巻く環境改善に向けた取組に注力して参ります。

以上